

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助の基盤と専門職Ⅱ			選択	2	1	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
田村 正人		B308	masato.tamura		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要		<p><目的>ソーシャルワーカーにとって必要である、専門職としての倫理を理解したうえで、マイクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワークの必要性やジェネラリストの視点から包括的な支援の重要性を学ぶことを目的とする。</p> <p><概要>本講義では、学生がソーシャルワーカーとして必要な、専門職の倫理、ソーシャルワーク実践での基本となる考え方を身につけられるように進める。Microsoft Teams を使用した同時双方向型授業を行う。</p>				
授業形式・方法		<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク
学習上の助言		今後の専門科目の基盤となる科目なので、重要な概念、用語など予習復習や事前課題の他自主的に疑問を調べて理解をする必要がある。積極的に質問をすることが望ましい。				
教科書		最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門) /編：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 /中央法規出版				
参考書		指定参考書なし				
外部教材		指定外部教材なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	ソーシャルワークの倫理綱領の意義について理解し、説明できる。			HSU(1)(2)、WP(4)(5)		
②	ソーシャルワークにおける倫理的ジレンマについて理解し、説明できる。			HSU(1)(6)、WP(3)(5)		
③	マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク実践の視座について理解し、説明できる。			HSU(1)(3)、WP(3)(5)		
④	ジェネラリストの視点に基づいたソーシャルワークについて理解し、説明できる。			HSU(2)、WP(3)(5)		
⑤	社会福祉士の職域を知り、多職種との連携の必要性を理解し、説明できる。			HSU(2)(6)、WP(1)(3)(5)		
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価についての説明、学習方法について理解する。)、前期振り返りをする。	同時双方向型授業	シラバスを精読する。 教科書の目次を把握する。 4			
2	ソーシャルワークの倫理① 専門職倫理の概念と倫理綱領を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第5章第1,2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
3	ソーシャルワークの倫理② ソーシャルワーク実践における倫理綱領の活用を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第5章第2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
4	ソーシャルワークの倫理③ 倫理的ジレンマを学ぶ	同時双方向型授業	教科書第5章第3節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
5	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲① ソーシャルワーク専門職の概念と範囲を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第6章第1節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
6	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲② 社会福祉士の職域と役割を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第6章第2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
7	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲③ 多様な組織・機関・団体における専門職を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第6章第3節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
8	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲④ 諸外国の動向を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第6章第4節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
9	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク① マイクロ～マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第7章第1節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
10	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク② マイクロ～マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第7章第2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
11	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③ マイクロ～マクロレベルのソーシャルワーク実践を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第7章第2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
12	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容① 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第8章第1節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容② ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第8章第2節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容② 他職種連携およびチームアプローチの意義と内容を学ぶ	同時双方向型授業	教科書第8章第3節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
15	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容③ 事例をもとに理解を深める	同時双方向型授業	教科書第8章第3節を精読し、事前課題に取り組む。 4			
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照					

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	30	0	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	20	0	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験は講義で用いた教科書、配布プリントから出題するので、予習や復習を行い理解度を確認すること。 ・試験形式（筆記試験） ・問題形式（選択式・記述式・穴埋め式など）				試験解答例を Teams 上で掲示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①	✓	5 回目の授業でレポート課題を出し、授業の理解度の確認と評価をする。提出は Teams 上で行う。				レポートは採点をして Teams 上で返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	講義で学んだことや感想、質問などをリアクションペーパーに記述して Teams 上で提出してもらい、理解度を確認し意欲的に学ぶ姿勢を評価する。				リアクションペーパーについては Teams 上でコメントをして返却する。質問があった場合、授業内で共有する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員							
教員の実務経験	社会福祉士として認知症高齢者や知的障害者、精神障害者の成年後見人の受任や、障害者の権利擁護法人の運営等をして 10 年の実践経験。						
実践的授業の内容	教科書やシラバスの内容に沿って、教員が実践してきた事例（個人を特定できないよう加工）を用いたり、実践内容をソーシャルワークの基本に当てはめて説明を行ったりすることで、学生がより科目内容を具体的に学ぶことができるように学習を進める。						
そ の 他	【履修についての条件】 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」を履修していることが望ましい。 【受講する際の注意事項】 ・Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi fi 環境を推奨する。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。 ・同時双方向型授業では講義中にフィードバックを行い、できない部分は個別に質問に返答する場合もある。						